

令和 3 年 度
(令和 2 年度実績)

食肉衛生検査業務概要



鹿児島市食肉衛生検査所

はじめに

鹿児島市食肉衛生検査所の業務につきましては、日頃より格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症は世界的に猛威を振るい、今なお社会・経済活動などに深刻な影響を与えています。畜産業界においても、外出自粛や都市封鎖による牛肉需要の減少を受け、和牛枝肉相場の低迷、食肉輸出量が減少するなど未だ厳しい状況が続いています。

26年ぶりに発生した豚熱については、ワクチン接種が始まったものの依然として野生イノシシによる感染拡大が要因となっております。近隣諸国ではアフリカ豚熱、口蹄疫が継続的に発生しており、国内への侵入リスクも高まっています。当所においても関係機関との連携を強化するとともに、と畜場への防疫及び衛生指導を実施し、と畜場を介した疾病の蔓延防止に努めてまいります。

今年6月に「食品衛生法等の一部を改正する法律」が完全施行され、全ての食品等事業者にHACCPに基づく衛生管理が義務付けられました。またこれに伴ってと畜場では、と畜検査員による外部検証の実施についても示されました。当所では引き続き、外部検証を通してと畜場設置者への積極的な指導・助言を行うとともに、HACCPシステムの継続的な改善に取り組み、食肉の衛生水準向上を図って参ります。

今後も最新知識の習得や検査技術の向上に努めるとともに、と畜検査による疾病の排除、と畜場に対する衛生監視指導、残留有害物質のモニタリング検査や微生物汚染実態調査等を実施し、より一層の食肉の安心・安全の確保に取り組んでまいります。

ここに令和3年度食肉衛生検査業務概要（令和2年度実績）を取りまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和3年9月

鹿児島市食肉衛生検査所長

田邊 隆

目 次

第1章 検査所の概要

1	沿革	1
2	所在地	2
3	組織機構	3
4	職員構成	3
5	事務分掌	3
6	検査手数料等	4
	(1) と畜検査手数料	
	(2) と畜場使用料・とさつ解体料	
7	食肉衛生検査所管理棟平面図	5、6
8	主要検査機器	7
9	鹿児島食肉センターの概要	8

第2章 と畜検査業務の概要

1	と畜検査頭数	
	(1) 年度別と畜検査頭数	9
	(2) 年度別と畜検査頭数の推移	9
	(3) 月別と畜検査頭数	10
	(4) 月別と畜検査頭数の推移	10
	(5) 出荷地別と畜検査頭数	11
	(6) 豚の湯剥ぎ、皮剥ぎの推移	11
2	と畜検査に基づく廃棄処分措置	
	(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数	12
	(2) 年度別全部廃棄頭数の推移	13
	(3) 牛の全部廃棄状況	14
	(4) 豚の全部廃棄状況	15
3	精密検査実施状況	
	(1) 枝肉の拭き取り検査	16
	(2) 抗菌性物質の残留検査	16
	(3) BSE(牛海綿状脳症)の検査	17
4	輸出食肉に係る業務	17
5	その他	
	衛生講習会	17

第3章 調査研究、研修等

1	調査研究部会	18
2	職員の技術研修等	18

第1章 検査所の概要

1. 沿革

明治 42 年 7 月	『鹿児島市営と畜場』を鹿児島郡伊敷村字松木川原に設置
大正 9 年 10 月	伊敷村の一部合併により経営権を伊敷村へ移譲
大正 13 年 7 月	と畜場を伊敷村下伊敷 557 - 2 に移転し、名称を『伊敷村営屠場』へ
昭和 25 年 10 月	伊敷村との全面合併により、経営権を鹿児島市へ移行 と畜検査業務は保健所公衆保健課が所管
昭和 32 年 10 月	と畜場を郡元町 2411（現：新栄町 22-34）に移転
昭和 34 年 10 月	機構改革により所管を中央保健所公衆保健課から中央保健所公衆衛生課へ変更
昭和 46 年 10 月	中央保健所公衆衛生課に食肉検査係を新設
昭和 50 年 2 月	試験検査室の新築
昭和 53 年 2 月	病畜棟の新築、検査員事務室の増築
平成 4 年 4 月	食肉検査係から食肉検査課に昇格
平成 8 年 4 月	鹿児島市が中核市へ移行
平成 8 年 10 月	と畜場を新栄町 22-34 から下福元町 7852 に移転
平成 9 年 4 月	食肉検査課から食肉衛生検査所へ改称
平成 11 年 1 月	と畜場が対香港輸出豚肉取扱施設として認定
平成 12 年 4 月	機構改革により環境局中央保健所食肉衛生検査所から 健康福祉局保健所食肉衛生検査所へ変更
平成 15 年 4 月	と畜場を民営化し、名称を『鹿児島食肉センター』へ
平成 19 年 2 月	試験検査室等の増築
平成 22 年 4 月	と畜場が対タイ輸出牛肉取扱施設として認定 と畜場が対マカオ輸出牛肉取扱施設として認定
平成 26 年 9 月	と畜場が対ベトナム輸出牛肉取扱施設として認定
平成 30 年 8 月	と畜場が対ミャンマー輸出牛肉取扱施設として認定
平成 30 年 10 月	と畜場が ISO22000 を取得
令和 2 年 2 月	と畜場が対ベトナム輸出豚肉取扱施設として認定

2. 所在地

名 称 鹿児島市食肉衛生検査所（鹿児島食肉センター内）

郵便番号 891-0144

住 所 鹿児島市下福元町7852

電 話 (099) 262-2116

F A X (099) 262-4940

e m a i l syokuniku@city.kagoshima.lg.jp

アクセス方法

①電車を利用

J R鹿児島中央駅より、J R指宿枕崎線「指宿行き」に乗車、J R五位野駅で下車
J R五位野駅から鹿児島食肉センターまでタクシーで約5分、徒歩で約20分

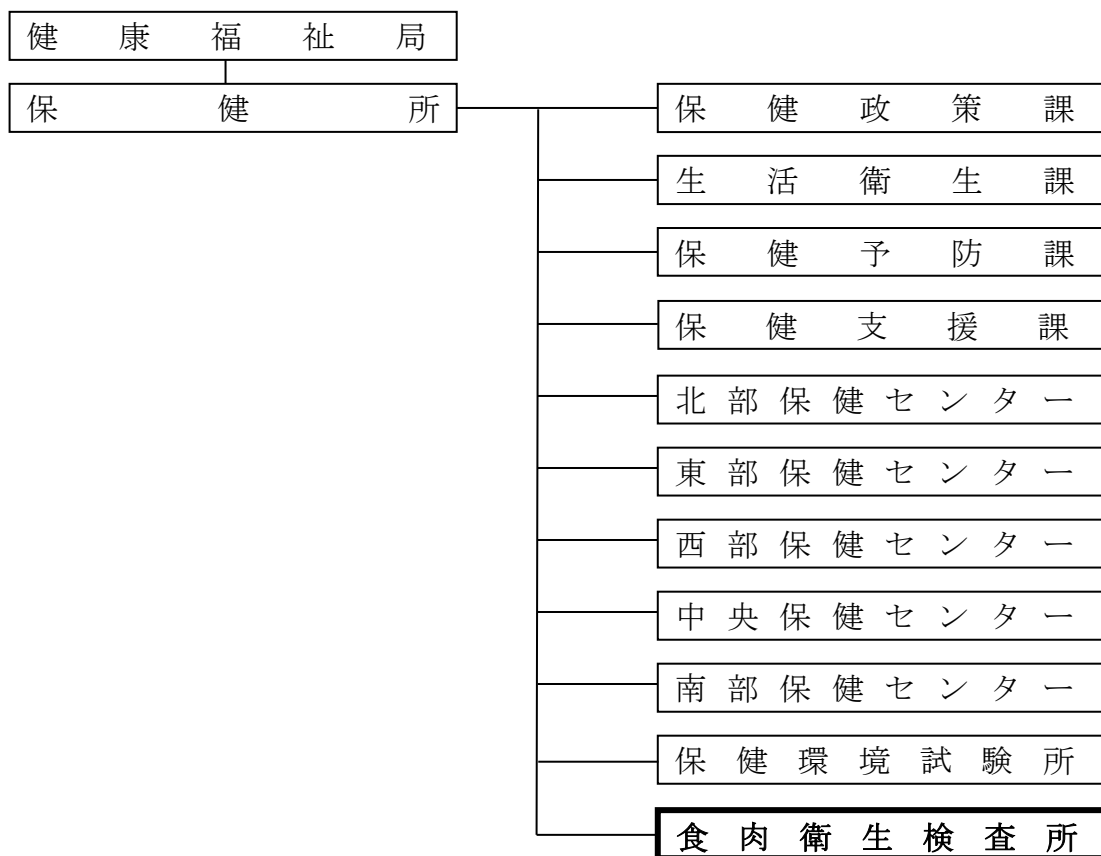
②航空を利用

鹿児島空港よりバス利用の場合

高速バス（直行便）でJ R鹿児島中央駅まで約40分 その後電車を利用



3. 組織機構



4. 職員構成

令和2年4月1日現在

職名	所長	主幹	主査	主任	獣医師	主任	会計年度任用職員		合計
職種	獣医師					事務	補助員	事務	
人数	1名	1名	5名	5名	1名	1名	10名	1名	25名

5. 事務分掌

鹿児島市組織及び事務分掌等に関する規則（抜粋）

- (1) と畜場法に基づくと畜検査及び衛生指導に関すること。
- (2) 食品衛生法に基づく監視指導、収去・検査及び措置に関すること。
(他の所掌に係るものを除く。)
- (3) 手数料の収納に関すること。
- (4) 公印の保管に関すること。
- (5) その他所に属する軽易な庶務に関すること。

食鳥検査については、市保健所生活衛生課食品衛生係が所掌し、指定検査機関の公益財団法人鹿児島市獣医公衆衛生協会に検査業務を委任している。

6. 検査手数料等

(1) と畜検査手数料

(1頭あたりの料金)

区 分	時間内	時間外
牛・馬	760 円	1,520 円
子牛・子馬	380 円	760 円
豚	350 円	700 円
乳とく・めん羊・山羊	170 円	340 円

平成 19 年 4 月 1 日から適用

(2) と畜場使用料・とさつ解体料

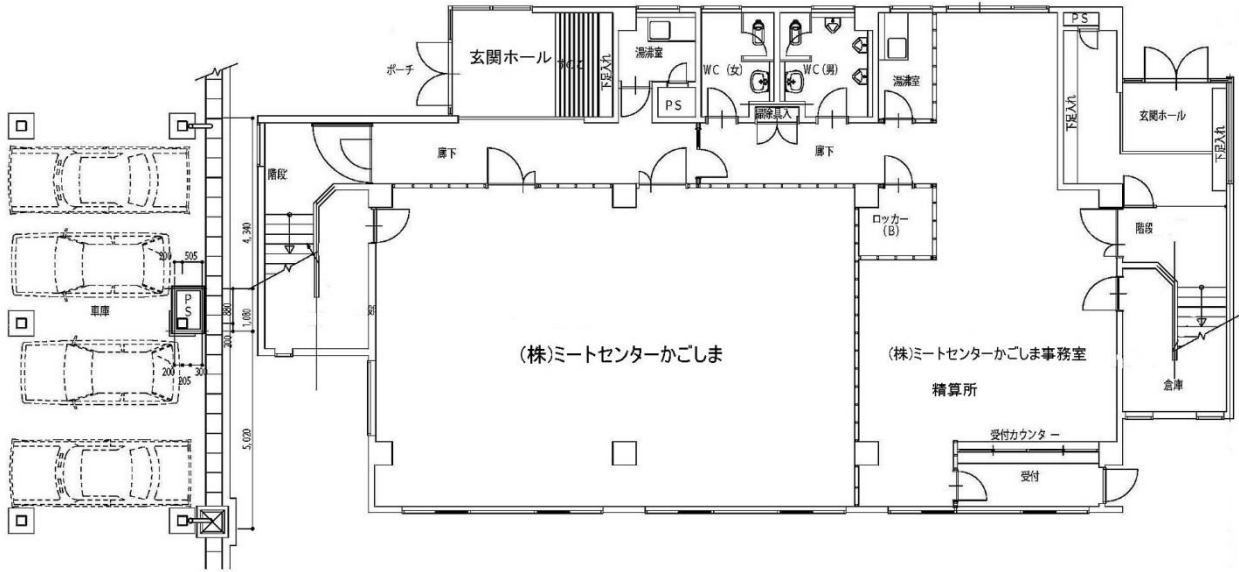
(1頭あたりの料金)

区 分			時間内	時間外	
と畜場使用料	牛・馬		2,244 円	3,366 円	
	子牛・子馬		1,122 円	1,683 円	
	豚	皮剥ぎ	1,122 円	1,683 円	
		湯剥ぎ	1,265 円		
	乳とく・めん羊・山羊		242 円	363 円	
とさつ解体料	牛・馬		5,286 円	8,597 円	
	子牛・子馬		3,258 円	6,996 円	
	豚	普通	皮剥ぎ	705 円	3,503 円
			湯剥ぎ		
		大豚	皮剥ぎ	(機 械) 1,453 円	
				(手剥ぎ) 1,879 円	4,678 円
		湯剥ぎ	1,453 円		
乳とく・めん羊・山羊		1,602 円	5,340 円		

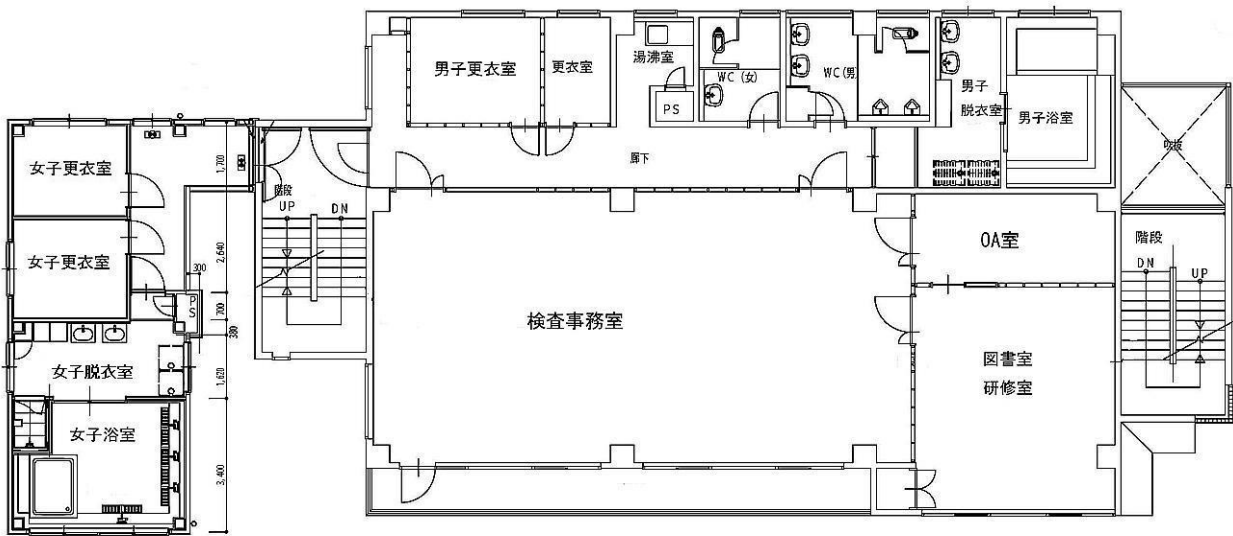
令和元年 10 月 1 日から適用

7. 食肉衛生検査所管理棟平面図

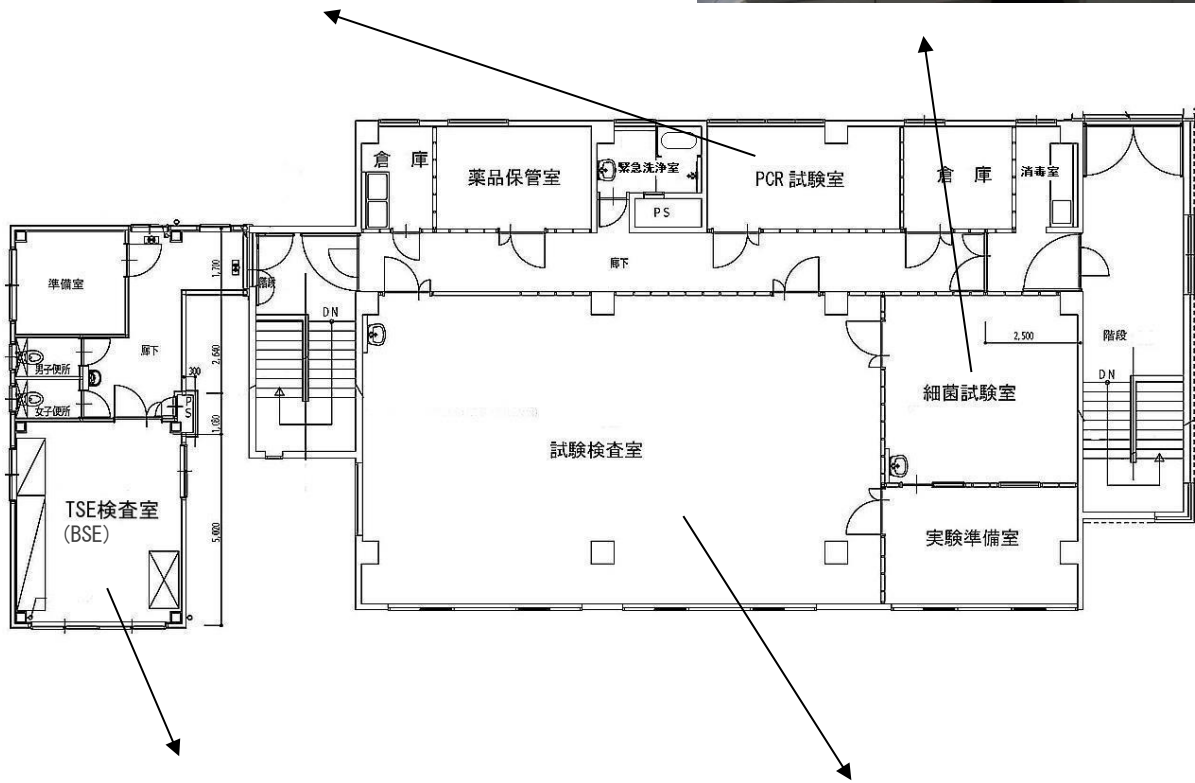
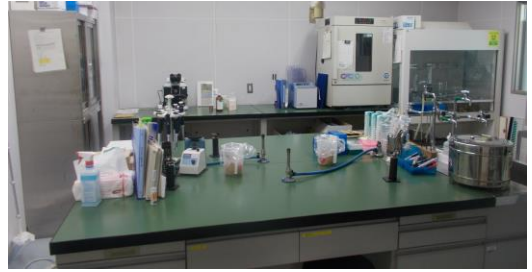
管理棟 1階



管理棟 2階



管理棟 3階



8. 主要検査機器

微生物検査関係	乾熱滅菌器	インキュベーター	ミキサー
	マグネットスターラー	高圧蒸気滅菌器	実体顕微鏡
	位相差顕微鏡	嫌気培養器	ディープフリーザー
	高速冷却遠心機	ディスクッション顕微鏡	保冷库
	冷蔵ショーケース	バイオクリーンベンチ	試験管攪拌器
	ストマッカー	電気泳動装置	電気泳動ゲル撮影装置
	湯煎器	DNA増幅装置	紫外線照射装置
	アルミブロック恒温槽	安全キャビネット	微量電子天秤
	卓上型ドラフト		

理化学検査関係	超音波洗浄機	インキュベーター	高速液体クロマトグラフシステム
	電子分析天秤	水分測定器	ロータリーエバポレーター
	pHメーター	アスピレーター	分液ロートシェーカー
	卓上型生化学検査システム	超高速ホモジナイザー	ピペット洗浄器

病理検査関係	自動固定包埋装置	病理組織検査用顕微鏡システム	パラフィン包埋ブロック作成装置
	クリオスタットマイクロトーム	組織固定用振とう器	パラフィン伸展器
	滑走式マイクロトーム		

BSE検査関係	マイクロプレートリーダー	試験管攪拌機	組織・細胞破碎装置
	マイクロプレートウォッシャー	インキュベーター	高速冷却遠心機
	安全キャビネット	アルミブロック恒温槽	電子天秤
	ディープフリーザー	冷蔵ショーケース	

9. 鹿児島食肉センターの概要

(1) 敷地面積 29,846.61 m² (9,044 坪)

(2) 建築面積 11,076.96 m²

(3) 延床面積 14,461.16 m²

・本館棟 12,353.78 m²

(m²)

		大動物	小動物	共用	合計
とさつ解体施設	係留バース	1,740			7,233
	係留施設	369	958		
	と室・解体室	323	926		
	内臓処理室	144	264		
	休憩室・工作室・廊下等	2,509			
冷蔵室		205	257		462
部分肉処理加工施設		929	1,985	824	3,738
共用施設 (冷凍機械室、医務室等)		920			920
合計		1,670	4,690	5,993	12,353

・管理棟 967.60 m²

・病畜棟 262.50 m²

・廃棄物処理棟 420.00 m²

・受水槽棟 75.56 m²

・汚水処理棟 381.72 m²

(4) 処理能力

	大動物	小動物
けい留所収容	57 頭	1,000 頭
とさつ・解体	80 頭/日	1,300 頭/日
懸肉・予冷		1,300 頭/日
冷却・冷蔵	200 頭	1,900 頭 (部分肉処理加工施設含む)
部分肉処理加工	45 頭/日	400 頭/日

第2章 と畜検査業務の概要

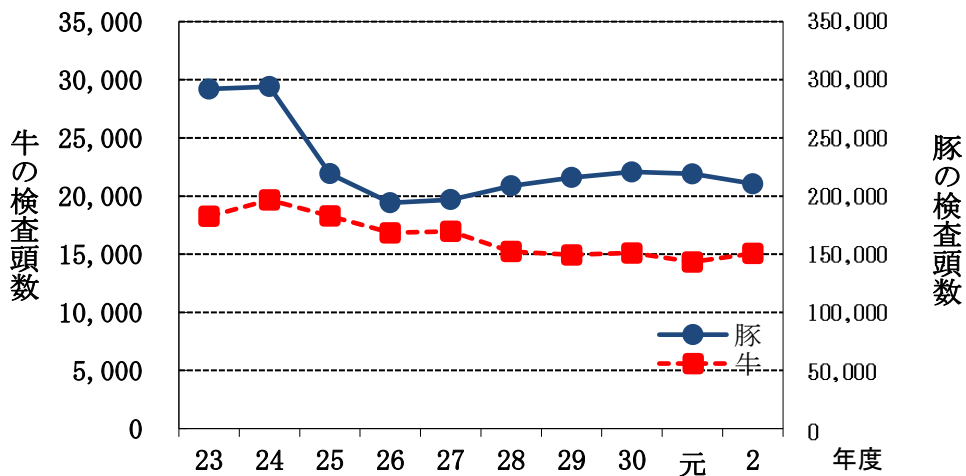
1. と畜検査頭数

(1) 年度別と畜検査頭数

	牛		子牛		馬		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
平成 23 年度	18,126	112	17	5	3	0	292,039	26	310,328
平成 24 年度	19,543	105	20	3	2	0	294,017	32	313,722
平成 25 年度	18,191	90	6	0	0	0	219,180	36	237,503
平成 26 年度	16,719	101	14	3	0	0	194,150	21	211,008
平成 27 年度	16,846	109	12	2	0	0	196,935	35	213,939
平成 28 年度	15,131	102	3	0	0	0	208,772	28	224,036
平成 29 年度	14,840	85	10	1	0	0	215,869	28	230,833
平成 30 年度	15,015	91	6	0	0	0	220,662	23	235,797
令和元年度	14,244	91	4	0	0	0	219,002	11	233,352
令和 2 年度	14,950	105	7	0	0	0	210,511	14	225,587
	15,055		7		0		210,525		
			15,062		0				

注) 子牛は生後1年未満の牛をいう。

(2) 年度別と畜検査頭数の推移

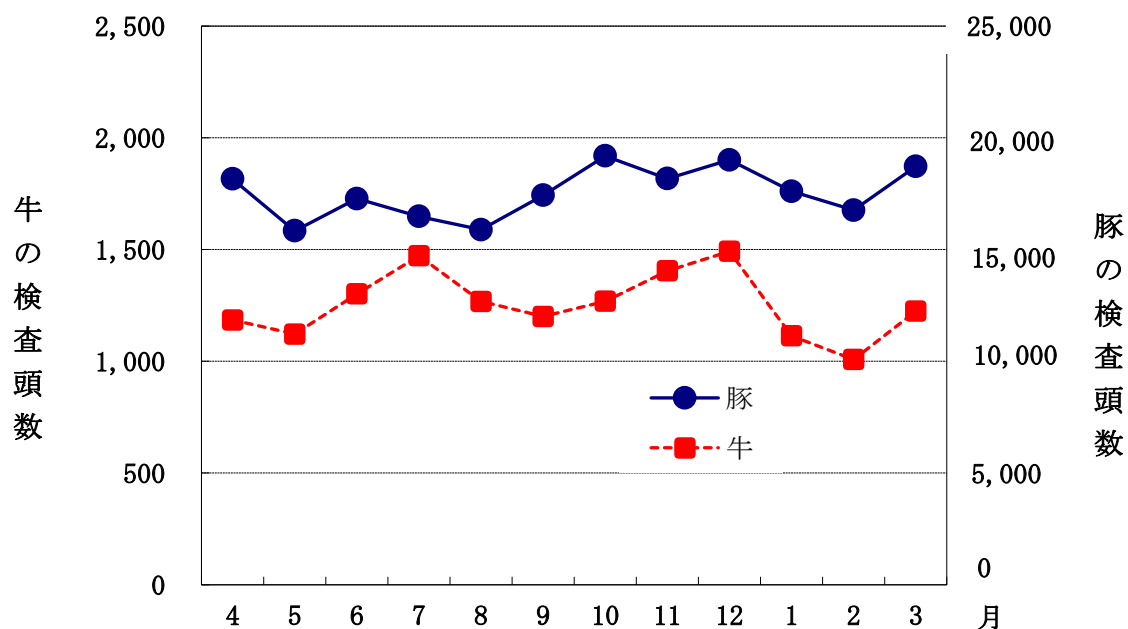


注) 平成 25 年度は、豚の大手出荷者の撤退により大幅減となった。

(3) 月別と畜検査頭数

	牛		子牛		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
4月	1,179	6	0	0	18,161	1	19,347
5月	1,108	14	0	0	15,834	1	16,957
6月	1,294	7	1	0	17,275	0	18,577
7月	1,461	10	1	0	16,485	1	17,958
8月	1,256	12	0	0	15,885	1	17,154
9月	1,196	5	0	0	17,426	1	18,628
10月	1,260	9	0	0	19,186	1	20,456
11月	1,392	12	1	0	18,171	3	19,579
12月	1,488	4	0	0	19,007	3	20,502
1月	1,102	11	1	0	17,607	2	18,723
2月	999	8	1	0	16,759	0	17,767
3月	1,215	7	2	0	18,715	0	19,939
合計	14,950	105	7	0	210,511	14	225,587

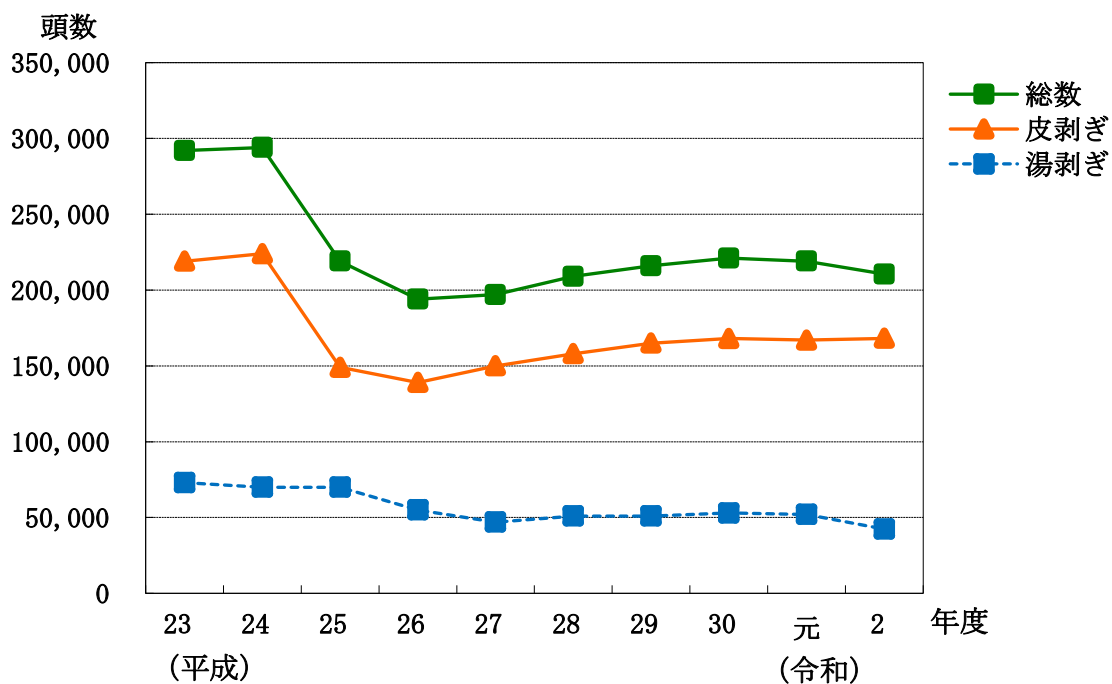
(4) 月別と畜検査頭数の推移



(5) 出荷地別と畜検査頭数

	牛の出荷地							豚の出荷地	
	和牛	乳牛		その他	子牛	総数	%	豚	%
		雌	雄						
鹿児島地区	420	10	0	0	0	430	2.9	297	0.1
指宿地区	1,223	2	0	528	1	1,754	11.7	8,097	3.7
川辺地区	1,265	35	2	323	1	1,626	10.8	56,518	25.8
日置地区	644	48	0	36	1	729	4.8	0	0.0
薩摩地区	885	1	0	669	1	1,556	10.3	20,606	9.4
出水地区	1,076	6	0	0	0	1,082	7.2	9,230	4.2
伊佐地区	587	130	1	334	2	1,054	7.0	4,371	2.0
始良地区	423	83	0	151	1	658	4.4	5,461	2.5
曾於地区	469	36	0	91	0	596	4.0	35,516	16.2
肝属地区	2,755	92	0	9	0	2,856	19.0	39,796	18.2
熊毛地区	37	1	0	0	0	38	0.3	176	0.1
大島地区	15	0	0	1	0	16	0.1	391	0.2
宮崎県	973	664	4	244	0	1,885	12.5	23,571	10.8
熊本県	111	176	3	172	0	462	3.1	6,463	3.0
その他	149	106	0	65	0	320	2.0	32	0.00
合計	11,032	1,390	10	2,623	7	15,062	100	210,525	100

(6) 湯剥ぎ、皮剥ぎ頭数の推移 (豚)



2. と畜検査結果に基づく措置

(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数

種別	と畜場内とさつ頭数	処分内容	処分実頭数		疾病別頭数																			合計				
					細菌病							ウイルス		寄生虫病		その他の疾病												
					炭疽	豚丹毒	サルモネラ症	結核病	ブルセラ病	破傷風	放線菌病	その他	豚コレラ	その他	ジストマ	その他の	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	中毒諸症		よ炎症又は炎症産物による汚染に	変性又は萎縮	その他	
牛	15,055	禁止																										
		全部廃棄	79	0.52							29				9	13	11	3	8	5					1			79
		一部廃棄	11,443	76.01								43								2		10,782	1,956	848			13,631	
子牛	7	禁止																										
		全部廃棄	1																1									1
		一部廃棄	5	71.43																		3		4			7	
豚	210,525	禁止																										
		全部廃棄	767	0.36	202	15									311	163	11	5	48	6				6			767	
		一部廃棄	121,264	57.60																10		118,645	1,979	6,125			126,759	
合計	225,587		133,559							29	43			320	176	22	8	57	23		129,430	3,942	6,977		141,244			

(2) 年度別全部廃棄頭数の推移

牛

疾病 \ 年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
膿毒症	8	5	7	4	9	10	10	9
敗血症	15	11	8	10	3	11	12	13
尿毒症	3	2	2	9	6	13	13	11
高度の黄疸	6	4	4		4	7	6	3
高度の水腫	11	20	11	12	8	7	7	9
腫瘍	15	3		1	5	8	3	5
変性又は萎縮		1	2		1	3	3	1
牛白血病	50	27	28	17	33	56	43	29
その他					1			
計	108	73	62	53	70	115	97	80

豚

疾病 \ 年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
膿毒症	196	191	231	283	361	400	481	311
敗血症	87	96	75	80	151	306	205	163
尿毒症	11	6	11	8	11	28	28	11
豚丹毒	131	30	38	31	26	41	15	202
高度の黄疸	2	6	5	6	5	22	9	5
高度の水腫	104	98	32	52	63	72	97	48
腫瘍	8	3	4	6	11	16	16	6
炎症又は 炎症産物								
変性又は萎縮	24	23	21	30	19	20	26	6
サルモネラ症					18	66	14	15
その他								
合計	563	453	417	496	665	971	891	767

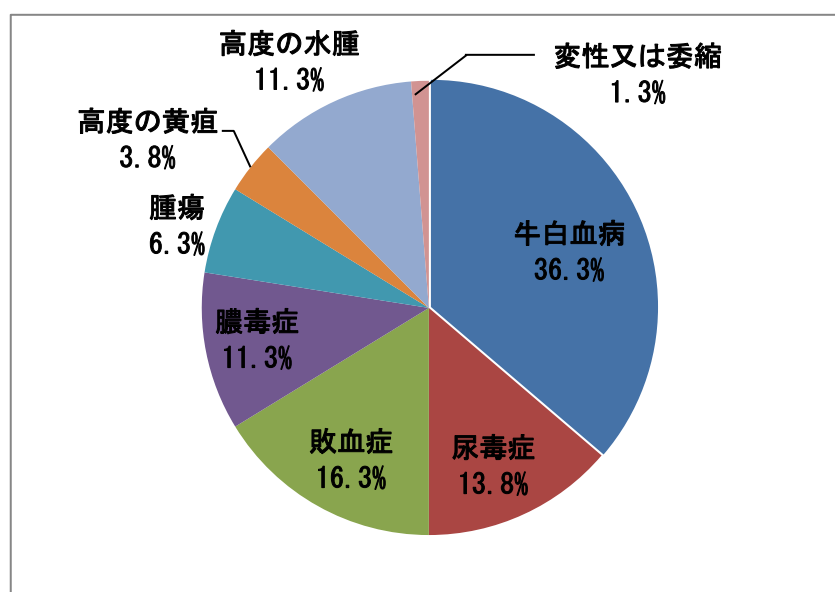
(3) 牛の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	牛									
	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	変性又は萎縮	ウイルス (牛白血病等)	その他	合計
4月	1	1			1		1	5		9
5月		1	2							3
6月	1	2	1			1				5
7月	1		1	1	2			3		8
8月						3		1		4
9月		2	2	1	1			1		7
10月	1	2	2					3		8
11月	1	2	2			1		4		10
12月	2				1			3		6
1月	1	1			3			4		9
2月	1	1								2
3月		1	1	1	1			5		9
合計	9	13	11	3	9	5	1	29		80

(子牛含む)

全部廃棄の疾病別割合

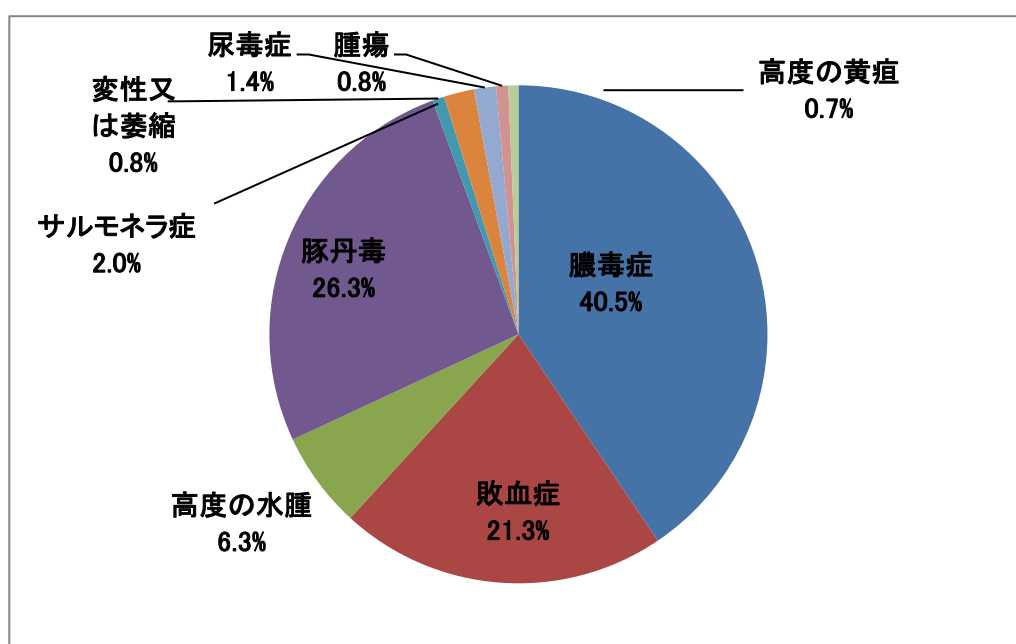


(4) 豚の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	豚											
	豚丹毒	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	産物による汚染 炎症または炎症	変性又は萎縮	サルモネラ症	その他	合計
4月	3	33	22	2		9	2					71
5月	18	35	18	1		3				1		76
6月	21	26	16	3	2	6						74
7月	31	25	11			3				5		75
8月	17	14	5	1		3			1	6		47
9月	8	33	11		1	2	1					56
10月	30	32	15			4	1			1		83
11月	6	21	25			7	2		1	1		63
12月	13	16	11	1					1			42
1月	15	27	12	2		1			3			60
2月	19	27	9	1	2	4						62
3月	21	22	8			6				1		58
合計	202	311	163	11	5	48	6		6	15		767

全部廃棄の疾病別割合



3. 精密検査実施状況

(1) 枝肉の拭き取り検査

(検体数)

項目 種別	一般細菌数	大腸菌群数	腸管出血性 大腸菌	サルモネラ 属菌	黄色ブドウ 球菌
牛	95	95	55	55	55
豚	95	95		55	55
合計	190	190	55	110	110

(2) 抗菌性物質の残留検査

①抗菌性物質の残留疑いの検査

区分	畜種	牛	子牛	豚	合計
検査頭数		348	6	465	819
検査結果 (陽性)	頭数	3	0	7	10
	枝肉	3	0	3	6
	肝臓	3	0	3	6
	腎臓	3	0	7	10
処分状況	食品衛生法適用	0	0	0	0
備考	自主廃棄	3	0	3	6

②疾病疑いによる保留での検査

区分	畜種	牛	子牛	豚	合計
検査頭数		100	1	1,080	1,181
検査結果 (陽性)	頭数	3	0	3	6
	枝肉	0	0	3	3
	肝臓	1	0	2	3
	腎臓	3	0	3	6
処分状況 (検査結果が陽性の 症例について)	食品衛生法適用	0	0	0	0
	他の疾病名で 全部廃棄	3	0	2	5
備考	自主廃棄	0	0	1	1

③モニタリング検査結果 (厚生労働省通知に基づく検査)

食品	検査検体数	検査項目		検査結果
		抗生物質(系統)	合成抗菌剤(薬剤)	
牛の筋肉	5	4	7	検出せず
豚の筋肉	10	4	7	

※抗生物質簡易検査4系統(テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系)

※合成抗菌剤一斉分析7薬剤(スルファメラジン、スルファモノキソン、スルフアジメキソン、チアンフェニコール、オメトプリム、トリメトプリム、ピリメタミン)

(3) B S E (牛海綿状脳症) の検査

(検体数)

	牛 (子牛を含む)	B S E 検査頭数	B S E 検査対象
平成 28 年度	15, 236	3, 171	48 か月齢を超える牛
平成 29 年度	14, 936	0	48 か月齢を超える牛
平成 30 年度	15, 112	3	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
令和元年度	14, 339	1	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
令和 2 年度	14, 957	0	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※

※平成 29 年 4 月から健康牛については廃止。24 か月齢以上の牛のうち、生体検査において神経症状等を呈するものについて、と畜検査員が必要と判断する場合に実施する。

4. 輸出食肉に係る業務

牛肉の輸出状況

輸出国名 年度	タイ		マカオ		ベトナム		合計	
	件数	重量(t)	件数	重量(t)	件数	重量(t)	件数	重量(t)
平成 29 年度	48	2, 7	15	1, 0	0	0	63	3, 8
平成 30 年度	54	17, 8	9	1, 9	11	3, 5	74	23, 3
令和元年度	47	21, 0	17	6, 6	12	4, 0	76	31, 7
令和 2 年度	52	24, 1	8	4, 1	19	8, 9	79	37, 1

豚肉の輸出状況

輸出国名 年度	タイ		マカオ		ベトナム		合計	
	件数	重量(kg)	件数	重量(kg)	件数	重量(kg)	件数	重量(kg)
令和 2 年度	0	0	1	58. 6	3	329. 9	4	388. 5

5. その他

食肉センター従事者及び市民を対象とした衛生講習会を実施した。

講習会内容	対象者	受講者数	実施時期・回数
安心して食べられる食肉をめざして	市民	13 名	令和 2 年 10 月 (1 回)
安心して食べられる食肉をめざして		25 名	令和 3 年 1 月 (1 回)

第3章 調査研究、研修等

1. 調査研究部会

鹿児島県食肉衛生検査所協議会の三部会に参加し、それぞれのテーマについて調査・研究・情報交換等を行った。

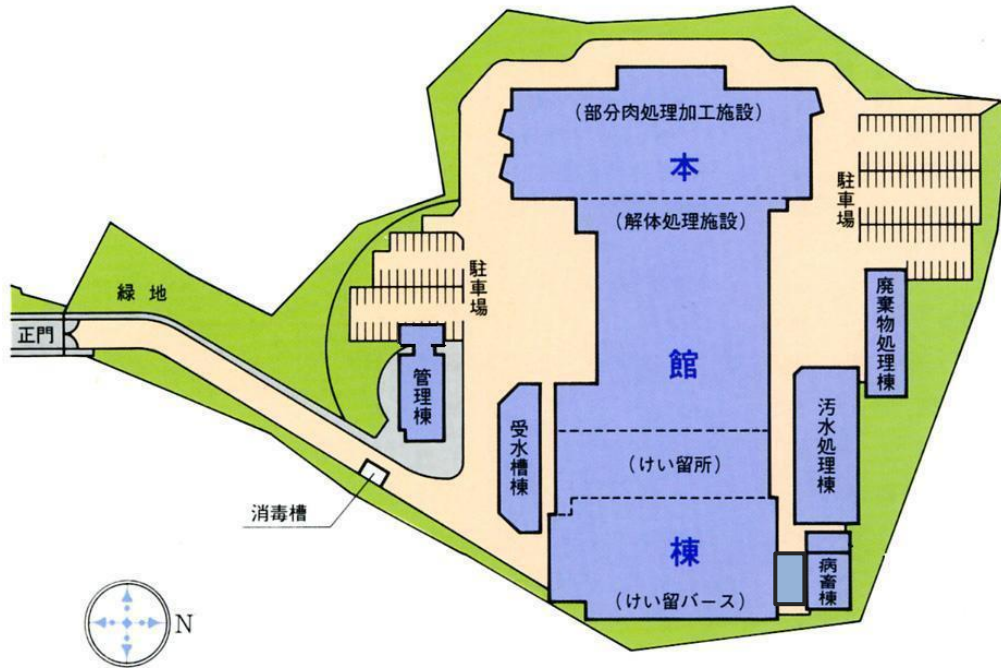
年 月	テーマ	場 所
令和2年5、11月 令和3年2月	〈微生物部会〉 ・と畜場及び大規模食鳥処理場における外部検証（微生物試験）のSOPの作成 ・未知試料からの菌分離：内部精度管理	第1回 鹿児島県末吉食肉衛生検査所
	〈病理部会〉 ・過去のカラーアトラス及び病変データ等の整理及び再編集	第2回 Web開催
	〈理化学部会〉 ・水腫の判定に関する調査	第3回 Web開催

2. 職員の技術研修等

検査員の資質向上のため、研修会へ参加した。

年 月	業務研修の内容	場 所
令和2年11月	HACCP指導者養成研修	福岡市
令和2年12月	HACCP指導者養成研修	Web研修

施設配置図



令和2年度 業務概要

令和3年9月 発行

鹿児島市食肉衛生検査所

〒891-0144

鹿児島市下福元町7852

TEL 099(262)2116

FAX 099(262)4940